

研修会報告

令和6年11月27日

文責：戸村 弘樹

研修会名：令和6年度臨床検査総合部門研修会

テーマ：「学会発表のススメ～学会発表の仕方や指導法と一緒に学びましょう～」

開催日時：令和6年11月16日（土）13：00～14：30

会場：Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会：戸村 弘樹

生涯教育点数：基礎教科 20点

参加者：会員参加者 38名 非会員 0名 賛助会員 1名 学生 0名 : 合計 39名

【プログラム】

講演1「私が学会発表で得られたこと」

東北医科薬科大学病院 検査部 高橋瑞恵 技師

講演2「やってみよう！学会発表・論文投稿」

東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門 千葉美紀子 技師

講演3「一度立ち止まって、検査技師の発表について考えてみた」

大崎市民病院 臨床検査部 高野託願 技師

講演4「偉大なる一歩、その一歩は軽やかに～ Although that 's one small step ,
it' s one giant step ～」

東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門 菅原新吾 技師

【内容】

本研修会は「学会発表のススメ」と題し、県内において研究および発表を精力的に頑張っている若手技師を演者に迎え、自身の研究および発表への向き合い方など発表して頂いた。また、研究および発表を指導する管理職側からも自身の経験から、指導に対してのメソッド、思い、注意点などをご教示頂いた。

講演1では、東北医科薬科大学病院 高橋技師から実際どのようにして学会発表のスキルを得てきたのか、発表があった。上司の部下への学会発表への促し方、指導の仕方を時系列で説明して頂き、理解度と順序だった指導方法が必要であることが理解できた。また、抄録作成指導から抄録の発表スライドへの入れ込み方などわかりやすく説明して頂いた。

講演2では、東北大学病院 千葉技師より一つのきっかけから、調査、発表、講演、シンポジウムへ自身の研究を広げていった実際の事例を発表して頂いた。きっかけを掴んで発表し、さらにその発表を広げていく、その原動力は何かを改善したいという情熱であるとのことであった。育児と発表の両立についてもアドバイスを頂いた。

講演3では、大崎市民病院 高野技師から発表準備から発表までの自身の工程を説明し

て頂いた。発表は型であるため、ある程度成書を参考に **power point** の作成法や発表の作法について学習するべきであるとのことであった。また、発表演題の見つけ方として、疑問が浮かんだら忘れる前に必ずメモを取る、そしてそのままにしないで調べる、とのことであった。このような姿勢が学会発表へと繋がっていくとのことであった。

講演 4 では、管理側から東北大学病院 菅原技師長より指導者と演者両方に向けて学会発表への取り組み方をご講義頂いた。指導者には、演者に対する同調、理解、気づきが大事であり、指導者には指導するスキルが必要であることが理解できた。また、どんな疑問でも自分にとっては大問題である、このことは発表や研究の根底を成すものであり重要な事であるが、そのためには勉強し論文を読み見識を広げる事も重要であるとのことであった。学会発表の効果として、発表した題材については自分が一番物知りであると自負できるよう調べものをし、準備してほしいし、それ自体が自分の財産になるとのことであった。

今回、それぞれの演者の経験をもとに「学会発表のススメ」をご講演頂いたが、いずれも実用的で今後の指導、学会発表に役立つものであった。この研修会によって県内の学会発表が増加することを期待いたします。